

小合中学校



吉田千秋

日本歴史地理学のパイオニアである吉田東伍博士の次男で、語学に精通し、16歳で6ヶ国語をマスターし、世界中にペンフレンドがいました。
「琵琶湖周航の歌」の原曲である「ひつじくさ」を詞作作曲し発表すると、ラジオのない時代にもかかわらず、多くの人々に歌われました。

千秋の生きた人生

1895年 2月18日 現在の秋葉区大庭に生まれる。
1897年 2歳 父(吉田東伍)の元へ上京
1901年 6歳 小学校入学
1912年 17歳 東京農業大学予科入学
1914年 19歳 大学を病気のため退学
1915年 20歳 「ひつじくさ」詞作作曲を音楽界に発表
1919年 24歳 24歳の若さで死去

吉田千秋邸



短い人生だったけど、千秋は私たちにたくさんの宝物を残してくれました。

千秋の遺品がたくさん展示されていますよ。

千秋のアコーディオンはドイツ製。とっても重厚感があります。



千秋はこの卓上ピアノを使い、100以上の曲を作ったのです。ここからたくさんの曲が生まれたなんてすばらしい!

蓄音機で外国語の勉強をしていたなんて、すごいね。



音楽雑誌にもたくさん投稿していたのね。



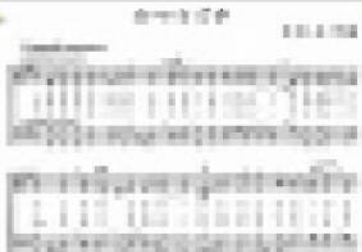
千秋の姪御さんは、とても親切に質問に答えてくれます。



とても優雅な感じがするよね。

8分の6拍子は日本人が好む拍子だからって、この曲に取り入れたみたいだよ。

四部合唱で歌うとハーモニーもきれいです。



「ひつじくさ」→開花時刻が、未(ひつじ)の刻(午後2時頃)であることに由来する。日本に自生する唯一のスイレン。



千秋は、ひつじくさを歌う人たちに「静かに、儼かな雰囲気であってほしい」という願いを込めたそうです。



千秋は、音楽以外にも植物や鉄道、鳥などに興味をもっていたんだね。



自分で図鑑や雑誌をつくっていたなんてすごいな。

千秋のスケッチはどれもとても好きで鑑賞で思わず見入ってしまいそう...

好奇心旺盛で、何でも自分で調べて解決していくなんて、感心します。



とても多才だったのに、あまりにも若い時に亡くなってしまったのが残念です。もっともっと長生きしていたら、どんな才能を発揮していたのかな...

千秋は、とっても努力家だったんだね。

語学は、最初は苦手だったらしいよ。千秋にも苦手なことがあったんだね。

こんなにすごい人なのだから、もっといろいろの人々に知ってほしい。

苦手だと言ってすぐにあきらめないところが、千秋のすごいところだね。蓄音機で外国語の教材を聞いて、独りで勉強したらしいよ。

英語だけじゃなく、フランス語やドイツ語、ラテン語、ロシア語、ギリシャ語などの外国語も、マスターしたんだね。



● 子どもの声 ●



千秋という名前の由来は、元気で長生きするようにつけられた名前だそうです。ぼくはとっても素敵な名前だなと思いました。千秋は植物が好きで、320種類もの植物を育てていたことにも驚きました。特にチューリップやダリアだったそうで、小合の花弁園芸とも関連しているんだなと思いました。吉田千秋邸は、建物全体が黒色で、まるでお城のような雰囲気に囲まれていて驚きました。きっと代々続く大富豪の家だったのではないかと思います。



千秋が作った曲は100曲以上あると聞き、24歳で亡くなってしまわずかな間にたくさんの曲を作ったすごいなと思いました。千秋の描いた絵や作ったカルタを見たとき、とてもリアルで本物みたいで驚きました。今もなお、たくさんの貴重な遺品や文化財がこんなにたくさん私たちの身近にあり、うれしくなりました。千秋は小合の、新潟の、誇りです。小合以外の人にも、もっと千秋のことを知ってほしいです。